



10月の園だより



2019年10月 吉野幼稚園

園長 野田弘之

主 題：自立する

聖書の言葉：「自分にしてもらいたいことは、他の人にもそのようにしなさい」

(マタイ7：12)

2学期が始まり、すぐに暑い中での運動会の練習となりました。最初は、まだ慣れない様子の子どもも見受けられましたが、だんだんと本調子になってきたようでした。おかげさまで運動会を、無事に終わることができました。保護者の皆様方のご理解・ご協力、誠にありがとうございました。大きな行事も一つ終わり、少しほっとしているところです。

さて今回は、毎日の園生活の中で子どもたちがいつも唱えている「お祈り」について、少しお話ししたいと思います。カトリック教会では、いろいろなお祈りがありますが、一番たいせつで中心となる、また一番親しまれている「お祈り」が二つあります。「主の祈り」と「アヴェマリアの祈り」です。主の祈りは「天におられる私たちの父よ、み名が聖とされますように……」(この後は、子どもさんに聞いてみてください) という祈りで、イエス様ご自身が私たちのために、教えてくださった唯一の祈りです。神さまに向かって、「私たちの父よ」と祈ることができるなんて、なんと素晴らしいことでしょう。天のお父様がどのような方なのか、聖書や絵本、さまざまな体験を通して、これからずっと、そしてより深く学んでいきましょう。

一方、「アヴェマリアの祈り」は「アヴェマリア、恵みに満ちた方、主はあなたとともにおられます。あなたは女のうちに祝福され……」(この後は、子どもさんに聞いてみてください) という祈りで、「聖劇」でも有名な受胎告知の場面で、天使ガブリエルがマリア様に言った言葉です。そのあとは、マリア様と胎内の御子を祝福する言葉が続き、最後に、罪びとである私たちの今現在と臨終のときの、マリア様への取り次ぎを願っています。ご承知のように、イエス様の母であるマリア様は、全人類の母でもあると思います。うれしい時、悲しいとき、つらい時など、家族の誰かに特に母親に話を聞いてもらいたい時があります。そのようなときに、自然にこの祈りが口ずさんでいけるといいなと思います。

決まった言葉の祈りだけではなく、心に沸いた気持ちを自分の言葉で祈ることも、特に大切です。なぜなら祈りは神さまと自分の対話だからです。神さまと人との対話では、必ず神さまのほうから私たちに語りかけてくださっています。たとえ、その声が聞こえなくても、神さまへのお返事として、お祈りをするのが大事だと思います。

幼稚園の活動や家庭での生活など、いろいろな場面で「お祈り」を日常的にさせたいものです。このことは、情操教育の面からもとても大事なことだと思います。

園の教育と、家庭での教育が一体となって、すばらしい御子を育ててまいりましょう